

新型コロナのため帰国した留学生のオンライン留学

索 宏

<要旨>

新型コロナウイルスの世界的なパンデミックにより、各国間の移動が制限されていた。そのため、一時帰国した外国人留学生の多くは、水際政策により、通常のように自由に日本に入国できなくなった。その結果、彼らは母国に滞在し、学業を継続するためにインターネットなどを利用して大学の授業に参加せざるを得なくなっている。そのため、留学生にとっては、「オンライン留学」は新しいライフスタイルとなり、学業・経済・生活など様々な場面で大きな影響を与えている。

多くの大学では、留学生の帰国を支援するためのさまざまな取り組みが、通信技術の制約により、現在のオンライン教育はまだ留学生の実際的なニーズに十分に応えられておらず、彼らの学習過程や学習成果を確保しにくくなったと考えられる。一方で、帰国した留学生はビザの更新の困難、学費、渡航費や家賃などの大きな経済的負担、入国や帰国の際の隔離措置、母国のコロナ対策による移動制限など、さまざまな生活的な課題を抱えている。これらの要因は、留学生が休学を選択したり、学業を継続できなかつたりすることと強く関連している。

本報告では、コロナのため帰国した留学生を対象に、母国に滞在しながら大学の授業や活動に参加した経験や、その際に直面した困難について、事例研究を通して分析する。また、留学を継続させる支援の可能性を探ってみる。